

(様式 1)

# 視 察 報 告 書

平成 28 年 6 月 16 日

鳥取市議会議長 房 安 光 様

鳥取市議会福祉保健委員会  
委員長 砂 田 典 男



本委員会は、下記のとおり委員を派遣し、行政視察（調査）を実施したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

<b>1 期 間</b>	平成 28 年 4 月 19 日から平成 28 年 4 月 21 日まで
<b>2 派 遣 先 及 び 視 察 ( 調 査 ) 内 容</b>	<p>&lt;神奈川県小田原市&gt;</p> <p>○介護予防事業について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・認知症予防の取り組み状況について</li><li>・効果について</li><li>・今後の課題等について</li></ul> <p>○アクティブシニア応援ポイント事業について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・取り組みの経緯について</li><li>・効果について</li><li>・今後の課題等について</li></ul> <p>&lt;千葉県浦安市&gt;</p> <p>○少子化対策について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・浦安版ネウボラについて</li><li>・主な取り組みについて</li><li>・効果について</li><li>・今後の課題等について</li></ul> <p>&lt;東京都江戸川区&gt;</p> <p>○江戸川区保育士確保プランについて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・取り組みの背景、経過について</li><li>・今後の課題等について</li></ul> <p>○江戸川区シニアスクールについて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・取り組みの経緯、効果について</li><li>・今後の課題等について</li></ul>
<b>3 派 遣 委 員 の 氏 名</b>	砂田 典男、石田 憲太郎、足立 考史、岩永 安子、勝田 鮮二、 前田 伸一、雲坂 衛、房安 光
<b>4 委 員 会 所 見</b>	別添のとおり
<b>5 参 加 者 所 見</b>	別紙のとおり

## 所見

神奈川県  
小田原市

○介護予防事業について

- ・介護や認知症予防の面でも効果が出ている以上、本市も取り入れてみる必要があるのではと思う。本市が実施している「おたっしや教室」は送迎付きで、小田原市は送迎を行っていない。市内8会場で行っており、近くの会場（公共施設、公民館等）で実施されるため、利用者が近くの会場に出向いて参加するようだ。本市で身近な人の話を聞くと、教室での友達関係が出来て3か月の日程が終了してからも同窓会的な関係ができ、引き続き月に何回か集まって運動や食事会を行っているようだ。今後とも高齢者同士お互い支え合いながら良い関係を築いていただきたいと思います。
- ・鳥取市も予防事業から総合事業への移行に合わせ、コグニサイズも健康教室の検討材料の一つであると感じた。また、健康教室の裾野の広い事業展開を図るには、指導者が素人でも行うことができる内容とすべきであり、高齢者が歩いて通うことができる町内会集会所等で実施し、健康教室参加者を増やすことがポイントであると感じた。
- ・説明受け、対象者の母数に対して参加者が少なすぎることで、また各施設に通所している方の参加となっており、予防を目的としていることから、「ずれ」があり、広報と測定効果についてさらなる課題を感じた。
- ・「脳と体の若返り塾」の拡充が理想ではあるが、地域で自主的に継続していける仕組みが出来ればもっと幅広く、多くの高齢者の予防事業になると思う。
- ・「脳と体の若返り塾」というネーミングがおもしろい。興味をひく。介護予防者、運動指導士に委託して実施している。1人当たり3,000円、受講者は無料。予算は全7会場（1会場あたり30人）で4～500万円。プログラムがおもしろい。単調な訓練だけでなく、日常生活につながりそうなプログラムがいいと思った。
- ・この種の講座の傾向は、概ね女性が多く男性が少ないのが特徴であるが、これも同様とのことである。効果はそれなりに現れていて、今後参加者を増やすことが求められている。本市では、しゃんしゃん体操をつくり同様の試みを実施しているがいずれも今後の成果を期待したい。
- ・認知症対策には有効的で、高齢者が簡単に取り入れることができ、本市の施策に検討したいと思った。

○アクティブシニア応援ポイント事業について

- ・鳥取市でも同様の介護ボランティア事業を実施していることから興味深く話を伺うことができた。獲得したポイントを換金ではなく地場産業の振興にかかる商品券とすることで、産業振興にもつながり、大変良い取り組みであると感じた。
- ・鳥取市でもボランティアポイントを実施しているが、福祉施設以外でのボランティアを広げ、活躍の場を広めていく選択肢が必要と思う。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業予算毎に、集客が必要なものに対しては、広告費をしっかり確保することも必要と思われ、より効果的な事業実施できる仕組みづくり及び効果測定方法を、本市においても期待したい。</li> <li>・ボランティアポイント制は本市でも取り組まれており、高齢者の社会貢献に対する意識や生きがいを持ち続ける意識が高まっている実態と思う。</li> <li>・鳥取市でも 5,000 円の限度額でボランティアを施設で受け入れている。参考にしたいと思ったのは、登録受け入れを受け入れている施設でも行うようにして、参加者を増やそうとしていること。「ボランティアの心得」を徹底するという条件でということ。</li> <li>・かなり特徴のある事業であり、継続を期待したい。登録者が徐々に多くなる努力を望み、本市でも参考としたい事業である。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>千葉県 浦安市</b></p>	<p><b>○少子化対策（浦安版ネウボラ）について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浦安市は財政力指数 1.61 で不交付団体の立場だ。市内全域でも、17.3 km<sup>2</sup>の限られた面積の中に昭和 58 年 4 月に東京ディズニーランドの誘致に成功し、平成 13 年 9 月には東京ディズニーシーもオープンしたこともあり、また都心へのアクセスの良さから居住人口も年々と増加する一方です。財源が豊かな自治体の施策は本市にはあまり参考にはなりませんでした。</li> <li>・子育て基金として 30 億円の積立金があることが、浦安市の強みであると感じた。子育てケアマネージャーの制度について本市も検討の価値ありと感じた。浦安市が行なっているふれあい体験事業、一時預かり事業が本市ではどのような事業でカバーされているのか調べてみたいと思った。</li> <li>・非常に素晴らしい子育て支援事業を展開しておられる。ただ、浦安市は財政力指数が 1.61 というたいへん財政に恵まれた都市であり、鳥取市ではなかなか思い切った事業の展開は困難な部分もある。しかし、少子化が進むうえで、参考になる部分は可能な限り検討し、実施できるよう考えていかなければならないと感じた。</li> <li>・浦安市は財政が大変潤っている自治体であり、その恩恵を受け少子化対策（浦安版ネウボラ）を行えている事業が多々あり、今後さらに財政課題が残る本市にとっては参考にならないことの方が多かった。</li> <li>・婚活担当の商工観光課、妊娠・出産担当の健康増進課、子育て支援等担当のこども課、保育全般担当の保育幼稚園課で少子化対策基金事業を全庁的に取り組まれていることは市民に寄り添った取り組みである。</li> <li>・総合的な観点で事業を進めているのがいい。すぐに効果が見えないのが当然といわれたが、「ふれあい体験事業」：小中高生が赤ちゃんサロンで赤ちゃんとおふれあう、出産育児について学ぶ事業まで入っている。また核家族化が多いという背景を踏まえ、一時預かり事業は理由を問わないというのもいい。保育士資格取得支援補助金は無償貸与制度だということで、今の情勢にぴったりで判断が早いと思った。</li> <li>・おそらく日本一と言える「ネウボラ」であろう。高く評価するとともに、大変羨ましくもある事業展開である。鳥取県では本年</li> </ul>

	<p>度より「子育て世代包括支援センター」（とっとり版ネウボラ）を全市町村に配置する取り組みを展開、本市も取り組みを始めているとのことであるが、更なる事業の充実を期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての子育てに対しての不安が、ちょっとしたことでもすぐに相談でき、安心できる部分が多く活用者が増えているとのこと。本市の施策におおいに参考になり取り入れるべきと思った。</li> </ul>
<p>東京都 江戸川区</p>	<p><b>○保育士確保プランについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士確保のためには、他産業との賃金格差解消が第一であると感じた。保育士の家賃補助は東京都市部では有効だが、本市には単純な当てはめはできない。保育士の低い賃金を何らかの形で補填できるような取り組みが本市でもできないものか考えてみたい。</li> <li>・保育士不足と言われる中で、有資格者の半分しか保育関係に就職しないという現状がある。江戸川区はH27年度で347人の待機児童があるが、鳥取市は年度当初の待機児童は0人。ただし、中途の待機児童の発生に対しての対応が求められる。江戸川区の事業を参考とするには財政的な課題があるが、可能かどうか研究してみる必要はあると思う。</li> <li>・全国の待機児童数ワースト10に入る対策を迫られている自治体ということで、政府からの呼び出しなど対応を迫られたうえでの補助率の高い政策であった。本市においても本市に見合った家賃補助を民間の保育士から検討してみるのもよいと考える。</li> <li>・公立保育園の民営化方針が明確に示されていたが、人件費の削減分が子育て支援策の予算になっているのではないかと思った。家賃という発想は都会らしいと思うが、給与が安い現実をカバーするために考えられたことで、いかに安い給与水準をあげるか考えないと保育士確保の展望はないと思う。</li> <li>・誠に手厚い事業ではあるが、ここまでする必要がある現実が恨めしい限りである。国の措置の拡充が求められる。まずは、保育士の給与の改善、また多様な勤務態勢の構築等、そうした事業の標準プランを国が作成し、財源を示し、地方の財政的、人的負担を軽減する必要があると考える。</li> <li>・江戸川区保育従事職員宿舍借り上げ支援事業補助金交付要綱など各項目細かく要綱があり安心して活用されとても参考になった。</li> </ul> <p><b>○シニアスクールの取り組みについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市ではこの様な各教室は各公民館が場所の提供を行っているが講師料に関しては各教室の受講者が負担している。この様に江戸川区の区民は大変恵まれた環境で個人負担のない中で老後を満喫できることは幸せなことだと思う。本市では、公民館運営に関しては大変不平等な現実がある。合併から10年以上経過する中で、大規模地区の公民館と小規模地域の公民館が同金額の運営費、同人数の人員で事業を行っている現実を早急に是正していかなければならないと思う。</li> <li>・江戸川区の場合、学校の空き教室利用法としてカルチャースクールの活用方法が多いとのことであった。鳥取市のこれから急増する空き教室をどのように活用すべきか。福祉施設以外にも選択</li> </ul>

肢はあるものと思うが、子どもたちとの交流を第一とし、公共施設として住民のニーズにあったものとし、他の民間施設との差別化を図る必要があると感じた。

・少子化による学校の統廃合で空き教室が増加しており、鳥取市でもシニアスクールとしての活用が検討されている。高齢者の活躍の場、生きがいつくりの場の提供と公共施設の有効活用という両面で有効な施策と感じた。江戸川区では行われていなかったが、学校の空き教室の活用ということで、児童と高齢者の交流も可能であり、異世代交流による新たな効果が期待できるのではないかと感じた。

・目的をより詳しく伺うと、地域社会の課題解決のための人材・能力開発であり、モデルケースは、中学生への講師として文化継承や人間性の伝達などであるとのこと。大変有意義であると感じた。一方で、モデルケース以外は高齢者の自己満足で終わっているものが多く公金を使って運営する事業としては社会的意義が薄いように感じた。

・鳥取の地で可能かどうか考えると、今以上に必要か？と感じる。学校の空き教室ということだが、今、放課後児童クラブの充実が求められる中、空き教室の活用が可能かな？と思う。まず子どもたちに十分な施設提供が必要なのではと思う。

・この教室では地域・社会貢献やボランティア活動も行っており些か多様な事業展開が見受けられる。本市の「尚徳大学」も参考とすべきであろう。

・皆さんが笑顔ではつらつと取り組まれ、区も冊子や案内パンフレットまたホームページなど、広報活動もしっかりとされていた。文化祭など活動の発表会・展示などありたくさんの家族を含め親睦を図られていた。今後の参考となった。